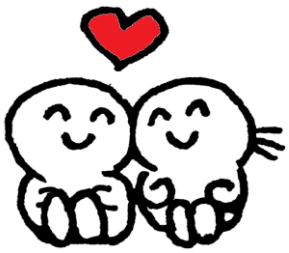
中谷病院の身体拘束への考え方

2010 年 6 月に抑制廃止委員会において委員長の『身体拘束廃止0』を目指し病院全体で取り組むことについて意思表明して以来、現在も職員が一丸となり実践しています。
厚生労働省が定められた抑制にあたる行為を検証し、院内にあるすべての抑制にかかわる物品（拘束着、ミトン、抑制帯など）を廃棄もしくは返品し覚悟をもって抑制廃止むけて取り組みにあたりました。
2011年 4 月に身体拘束サポートチームを立ち上げ「身体拘束0（ゼロ）作戦」を開始しました。高齢者の対応は困難でおむつさわりに対応する衣類の改良や、柵の位置調整、せん妄対策に室内環境を自宅のように整えたりと試行錯誤でしたが、現在では本人の背景から何を必要としているのか考えるようになり相手の必要とするケアを察する事と感じるようになりました。
宣言してから1件のみ、2019 年 5 月にやむを得ずミトンによる拘束をしましたが、現在は拘束0（ゼロ）を更新中です。
我々は本人の自立したその人らしい生活を支えるケアを確立することを重要として、ケアの本質とは何かを考えながら拘束をしない日常生活が送れるよう日々実践しています。
「縛らなければ安全を確保できない」「やむをえない」ではなく、相手の立場に立ち、思いやりから生まれてくる支援をしていきたいと考えています。



医療法人社団健裕会中谷病院